

第6学年 国語科学習指導案

指導者

- 1 単元名 「『鳥獣戯画』を読む」 高畑 勲（光村図書 国語6年）
「自分のまちの魅力を発信しよう」

2 目標

- ◎筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えることができる。（思B（1）イ）
- ◎引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思B（1）エ）
- ◎目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり，論の進め方について考えたりすることができる。（思C（1）ウ）
- 文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解することができる。（知（1）カ）

3 単元について

(1) 児童観

(2) 教材観

本教材の『鳥獣戯画』を読む』は、筆者がアニメ映画の監督の視点で『鳥獣戯画』の素晴らしいと感じている点について、解説を交えながら感想や意見を述べている説明的な文章である。ここでは、筆者の『鳥獣戯画』に対する見方を、表現や構成の工夫とともにとらえ、自分のものの見方を広げていく。そして「自分のまちの魅力を発信しよう」で、自分の住んでいる地域の評価したいことを、読者に伝わるように表現を工夫して書く学習へと展開していく。『鳥獣戯画』を読む』は、まず、絵と読者を出会わせ、次に「絵」と「絵巻物」の作品の解説や読み解きを進め、最後に筆者の主張を述べるという尾括型の文章である。本論後半では、『鳥獣戯画』だけでなく絵巻物全般を評価し、結論では、『鳥獣戯画』を「人類の宝」という象徴的な言葉で締めくくっている。記述の特徴は、絵の正確な観察をもとにして筆者の解説・評価が繰り返し述べられていることである。絵から見る表情、筆さばき、時間の流れなど評価する対象が次々と示され、さらにそれらを実評価する言葉は多様で高まりが見られる。絵と筆者の言葉が連動して生まれる躍動感、体言止めや語りかけるような表現等読者を引きこむ書きぶりである。光村図書の「国語6年」では、次に学習する「日本文化を発信しよう」と複合させた単元を構成し、読む領域で付けた力を書く領域で生かすという形で本単元が設定されている。しかし、小学校高学年において「日本文化の魅力」の本質を深く理解し、その魅力について評価する活動は困難であると考えられる。

以上のことから今回は、より主体的な学びの実現に向けて、児童自身が目的や必要性を意識して取り組める学習となるよう、実社会や実生活との関わりを重視した学習課題として、児童に身近な話題である、「自分のまちの魅力を発信しよう」というものを設定する。児童がまちの魅力の発信を行うためには、印象的な写真や説得力のあるコメントが必要である。前半の教材である『鳥獣戯画』を読む』で、学習した筆者の「読み取ったことや感じたことを表す表現」や文章を分かりやすく伝える構成などの技を数多く獲得することで、俳句や詩の鑑賞、図画工作科や音楽科における鑑賞の学習など国語科だけでなく、他教科にも活用できると考える。

(3) 指導観

本単元でつけたい力は、筆者のものの見方や考え方をとらえ、自分の考えを明確にしながらか読み力と絵を読み解いたことを伝えるため、事実と感想、意見などを区別して簡単な解説の文章を書く力である。「表現の工夫をとらえて読み、それを生かして書こう」という単元を貫く目標を設定し、前半の『鳥獣戯画』を読む』では、絵と文章とを対照して、筆者が何に注目し、それをどのように評価しているのか、筆者のものの見方や考え方、論の進め方を捉えて読んでいく。これらを意識しながら読むことが、ひいては自分が紹介する文章を書くときの表現の工夫として生かされていくと思われる。

書くことを意識した読み取りの段階では、「筆者は絵のどこに目を付け、どんな見方をしているのか」「筆者はどんな言葉を使って『鳥獣戯画』を説明したり評価したりしているのか」「筆者は読者に分かりやすく伝えるためにどんな工夫をしているのか」という読みの視点を与える。

「読み取ったことや感じたことを表す表現」に着目させる際には、教材文に出てくる言葉以外にもたくさんの言葉があることに気付かせ、本の紹介文や俳句の鑑賞文などの中から進んで見付けさせる活動を取り入れることで、語彙の習得につなげる。また、読者を意識した筆者の工夫を読み取らせる際には、教科書に書かれている例文も取り上げ、書き出しもいろいろなパターンで工夫でき

ることを実感させる。

「自分のまちの魅力を発信しよう」の書く段階では、読者（自分たちのまちについてまったく知らない人という設定）を意識して、構成や表現を工夫することを意識させ、学習を進めていく。まず、書き出しを工夫させる。次に、資料の中のどの部分を取り上げたか明らかにさせる。そして、その部分の何に着目したか（色、形、味など）を書かせる。最後に、それを根拠に読み取ったことや感じたことを表す表現を使って自分なりにまちの魅力が伝わるような推せん文を書かせる。その際に、「評価を表す言葉」や、「読み取ったことや感じたことを表す表現」を使わせるなどして、表現の効果を高めたい。また、読むときのリズム感を意識した「体言止め」や「語りかけ・問いかけ」を使用させたい。完成した推せん文は校舎内の廊下など全校児童が見られる場所に提示し、満足感を味わわせるようにするとともに、友達と自分の作品を比較させ、自分のものの見方や表現の方法を広げさせるようにする。

また、『「自ら考え、互いに学び合う子どもの育成」～ICTを活用した教育活動を通して～』という今年度の校内研究との関わりから、児童が自分のタブレット端末を使って、自分自身の課題を解決したり、お互いの考えを交流したりする姿を目指していく。研究主題にせまる手立てとして、以下のことについて行っていく。

○Jamboard の活用

事実と筆者の考え・意見を区別できるように、単元を通じて、Jamboard の線を以下のように色分けして、指導していく。

【事実】青色 【筆者の考え・意見】赤色

3・4時間目の授業で、筆者の『鳥獣戯画』や絵巻物の見方を読み取る学習活動では、教材文の文章から事実と感想、意見を読み取り Jamboard 上の教科書に線を引いていく。また、筆者が注目した点についても確認していく。

また、5時間目の授業で、筆者が『鳥獣戯画』や絵巻物についてどのように評価しているか分かる言葉を教科書から見つけだす作業を行う際には、Jamboard の付箋機能を活用し、主体的・協働的に整理する活動をしていく。

5 単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。((1)カ)	・「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B (1)イ) ・「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B (1)エ) ・「読むことにおいて」、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C (1)ウ)	・文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったり、構成を工夫して書き表したりすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって推せん文を作ろうとしている。

6 指導と評価の計画（13時間）

過程 (時)	ICT活用 Google Jamboard	主な学習活動	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 単元を通して解決したい問い 1時間の学習問題 まとめの表現例 </div>	教師の指導・評価
つかむ・見通す (2)	◎PDFで本文のみ配布	1 『鳥獣戯画』を見た感想を交流し、単元の学習課題について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">表現の工夫をとらえて読み、それを生かして書こう</div> 2 『鳥獣戯画を読む』『自分のまちの魅力を発信しよう』の学習計画を立てる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「絵を読む」とは、どういうことか考えよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">筆者のものの見方を捉え、『鳥獣戯画』の紹介の方法を学ぼう。</div>	○ 『鳥獣戯画』を見た感想を交流し、単元の学習課題について考えることができる。 【学】
調べる (4)	◎Jamboard ◎Jamboard ◎Jamboard	3 筆者が、P142～143で『鳥獣戯画』の絵をどのように読んでいるのかを調べ、分かったことなどをまとめる。 4 筆者が、P144～146で『鳥獣戯画』の絵をどのように読んでいるのかを調べ、分かったことなどをまとめる。 5 筆者が、『鳥獣戯画』や絵巻物をどのように評価しているのかを調べ、分かったことなどをまとめる。 (本時) 6 筆者が、どのように文章構成や表現の仕方を工夫しているか調べ、その効果についてまとめる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">筆者のものの見方を捉え、『鳥獣戯画』の紹介の方法を学ぼう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">筆者のような紹介をするためにはどのようにしたらよいのだろうか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">筆者は、『鳥獣戯画』と絵巻物をどのように読んだのだろうか。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「事実」、「着眼点」「評価する言葉」の観点で絵を読んでいる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">筆者は、『鳥獣戯画』や絵巻物をどのように評価しているのだろうか。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「事実」、「着眼点」「評価する言葉」の観点で絵を読んでいる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">筆者の表現や構成の工夫を読み取ろう。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「論の展開」、「文末」、「体言止め」、「語りかけ・問いかけ」、「話題」など工夫をしている。</div>	○ 他の人にまちの魅力を紹介するためにどうしたらよいか、これからの学習の見通しをもっている。 【思・判・表】 ○ 筆者が絵の描き方や絵巻物について、どんな感じ方や評価をしているか、絵と文章を照らし合わせながら読み取ることができる。 【思・判・表】 ○ 筆者の「書き出し」、「文末」、「体言止め」、「語りかけ・問いかけ」、「話題」など工夫を捉え、文章構成や表現の仕方を考えている。 【思・判・表】
深める (7)	◎Jamboard ◎Jamboard ◎スライド ◎スプレッドシート	7・8 「調べた情報の用い方」を読み、著作権への理解を深めながら、日本文化について書かれた本を選んで読み、書くときに参考になりそうな表現の工夫に着目して読む。 9・10 発信するまちの魅力の題材を決め、推せん文の構想を練る。 11・12 発信するまちの魅力が伝わるように工夫した推せん文を完成させる。 13 推せん文に対する感想を伝え合い、単元のふり返りを書く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">自分のまちの魅力を推せん文を作ろう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">日本文化について書かれた本を読み、推せん文を書くときの参考になりそうな表現を見つけよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">推せん文の題材を決め、構想に沿ってくわしく調べよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">構成や表現を考えて推せん文を完成させよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">構成や表現の工夫などに着目しながら、お互いの推せん文のよい点を伝え合い、単元全体をふり返ろう。</div>	○ 『鳥獣戯画』を読むから読み取ったことや感じたことを生かしながら、書くときに参考になりそうな表現の工夫に着目して読んでいる。【思・判・表】 ○ 自分のまちの魅力に目を向け、見通しをもって十分に調べ学習を進めようとしている。【主】 ○ 構成や割り付けを決め、読み手に自分のまちの魅力が伝わるように表現を工夫しながら推せん文を完成させている。【思・判・表】 ○ 単元全体をふり返り、これからの学習にいかしている。【主】

7 本時の計画（5 / 13）

(1)

(2)

(3) 目 標

- 筆者が、絵の描き方や絵巻物について、どんな感じ方や評価をしているか、絵と文章を照らし合わせながら読み取ることができる。

(4) 授業の展開

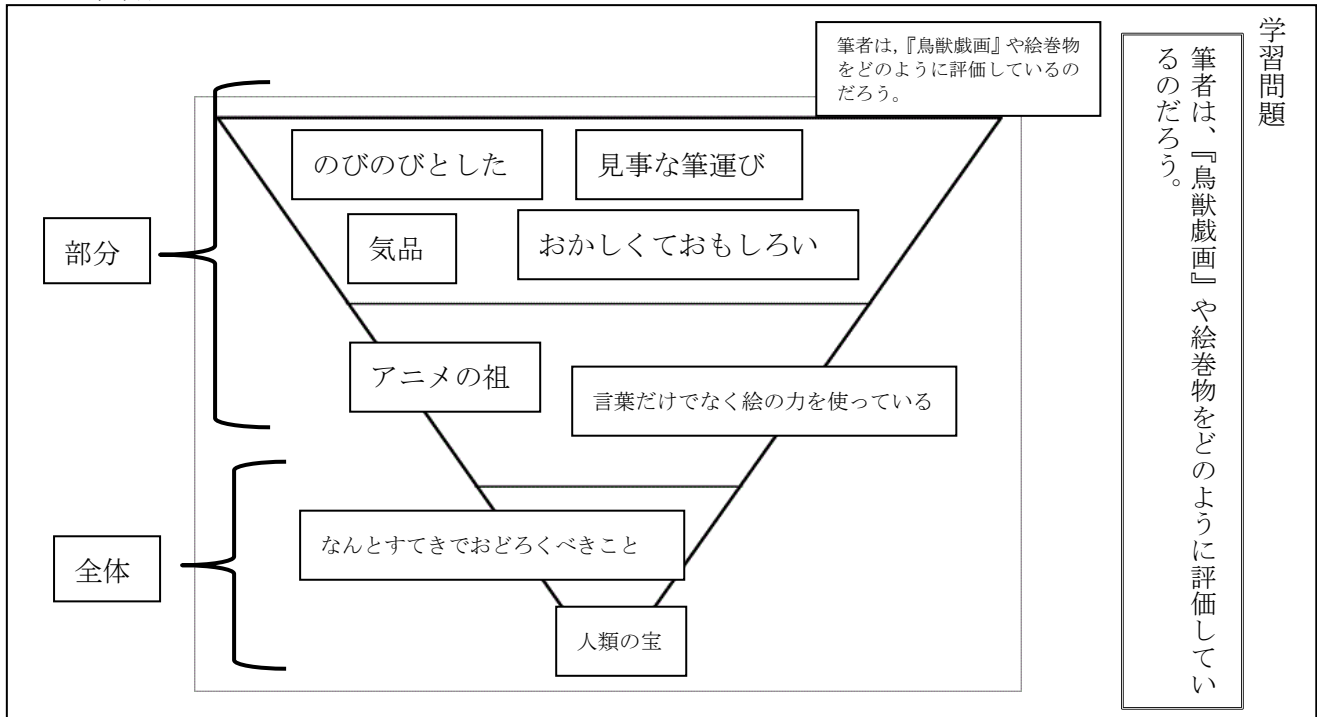
段階	学習活動	指導上の留意点
導入 10分	<p>1 筆者が使っている評価している言葉を抜いた文章を提示し、元の文章とのちがいを考える。</p> <p>2 学習計画表を提示し、筆者の絵の見方について学ぶことを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 評価する言葉があったほうが筆者の気持ちが伝わることに気がつかせる。 ○ 学習計画表を提示し、筆者がどんな言葉で絵を評価しているかを学ぶことで、紹介文を書くときに役に立つことを確認させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 筆者は、『鳥獣戯画』や絵巻物をどのように評価しているのだろうか。 </div>		
展開 30分	<p>3 筆者が使っている評価している言葉をワークシートに整理する。</p> <p>4 思考ツール「逆ピラミッドチャート」を使い、筆者が最も「評価している言葉」はなにか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ P142 をモデルにし、学級全体で評価している言葉の具体例を挙げて確認をさせる。 (のびのびと、～としか思えない、など) ○ P149 までに筆者が使っている評価している言葉を抜き出し、班ごとに Jamboard の付箋に書かせる。 ○ 誰が書いたか分かるように色分けする。 ○ まず個人で考え、グループで言葉を出し合い、交流させた後、学級全体で交流させる。 ○ 「全体の評価」や「部分の評価」という見方も意識させて、できるだけたくさんの付箋を貼らせる。
終末 5分	<p>5 本時の振り返りをして、次時の学習を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次時は、筆者の表現や構成の工夫を読み取れることを知らせる。
<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 評価 筆者が使っている評価する言葉を整理し、表現の工夫を読み取っている。 【思・判・表】 </div>		

8 評価

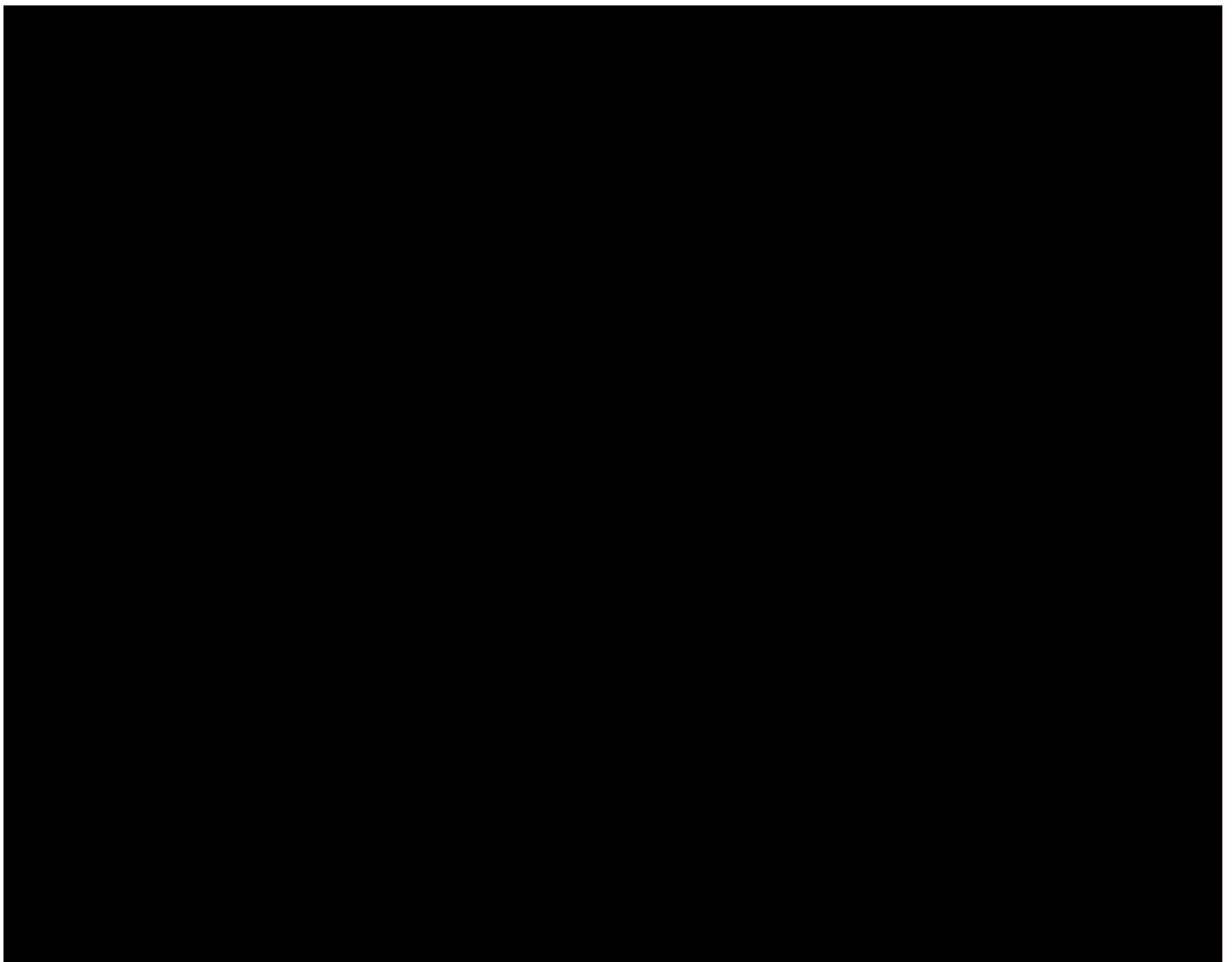
- 筆者が使っている評価する言葉を整理し、表現の工夫を読み取っている。【思・判・表】

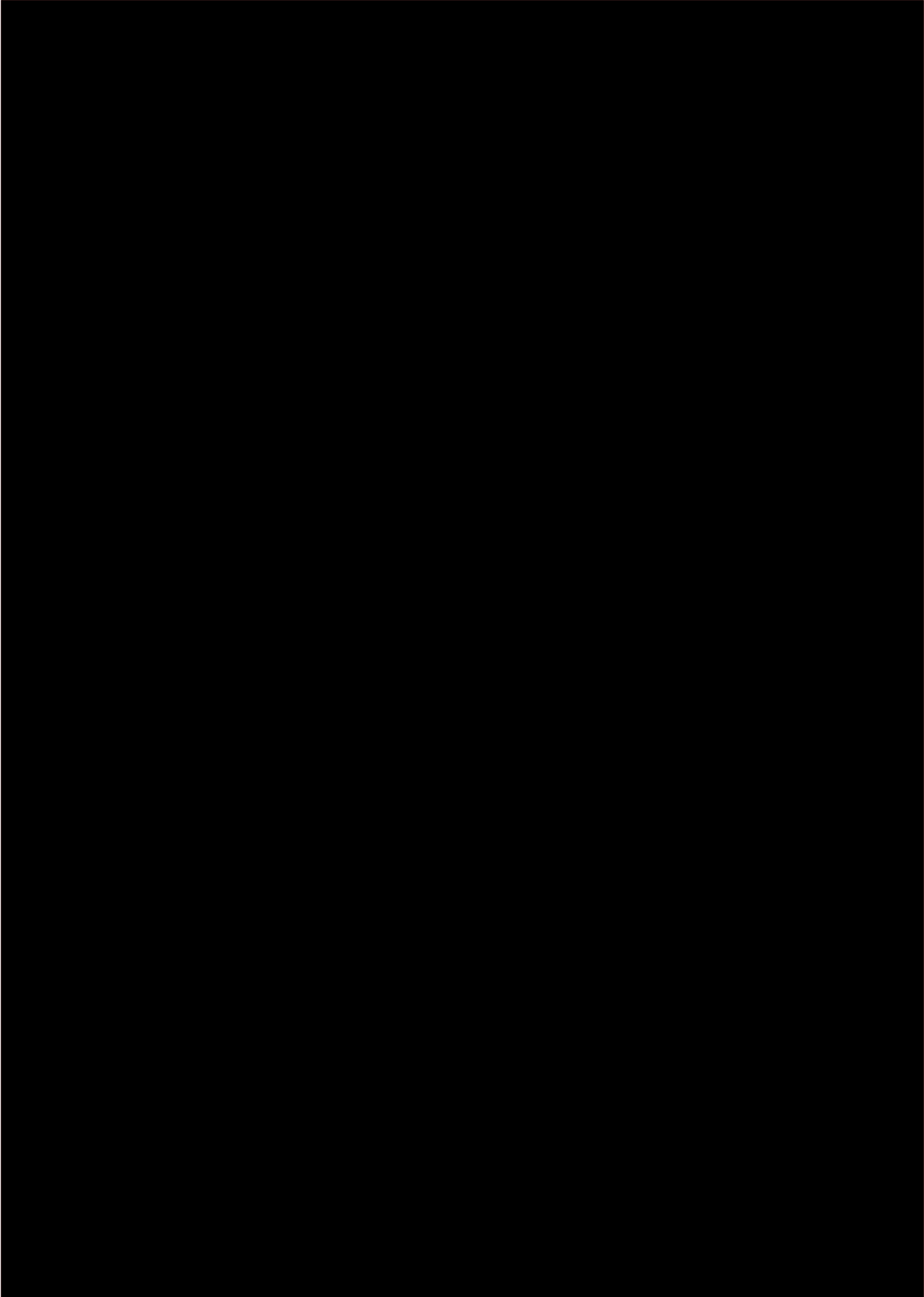
[ワークシートの記述内容]

9 板書計画



10 授業の様子





1.1 研究会から (研究討議・指導助言)

◎研究授業後の研究会

○授業者 [] から

- ・ 3つのS「Share (共有)」「Speed (速度)」「Search (検索)」の場面では、とても便利であると実感した。
- ・ 国語との相性が良くない。(縦書きができないため)
- ・ Jamboard が 20 枚しか増やせないで、クラス人数が 20 人を越えると一つのもので作業ができない。今回は班ごとに作業を行った。
- ・ コピー&ペーストの作業については事前に確認しておくこともできたが敢えて行わずに、今回の授業で初めて行った。そのため作業に少し時間がかかったが、班員同士で教え合いを行っているのがみえたので良かった。
- ・ 今後の課題として、Chromebook を活用させた上で、手書きとの使い分けをどのようにしていくかが課題である。

○研究討議 (小グループによるワークショップ後の全体への発表)

●A グループ

- ・ 児童は ICT に興味があり、それにより意欲的に取り組んでいる様子が見られた。
- ・ Jamboard のような活動は、書くことに対する敷居が低く、書くことが苦手な児童にとっても参加しやすくて良い。
- ・ 枠作りなど準備が大変だが、作ることができれば楽に進められる。
- ・ 話し合いの時間が少なかったため、友達の意見についての深まりが少なかった。

	Jamboardを活用したことで主体的・協働的な学習につながられたか。	Jamboardを活用したことが、評価する言葉を整理し、表現の工夫を読み取る学習に有効だったか。
児童の学習活動	<p>ICTの利用により主体的な活動が見られた。</p> <p>KJ的な思考活動を促していた。</p> <p>一部児童の活躍にならず、参加の敷居が低くなる</p> <p>書くことが苦手な子でも参加しやすい</p> <p>個々で書くことが求められたため人任せにせず作業していた。</p>	<p>以前の内容参照しやすい</p> <p>他の人の意見を参照したり、共有できる</p> <p>児童の活動を一言でき、次の発言につなげられていた</p> <p>友達の考えを参照できることで自分の考えに自信を持てたり比較して深めたりできる</p>
教師の指導	<p>一度学習方法を教えると学習が自動化できる。</p> <p>指導計画段階で授業に見通しを持つ</p> <p>児童の活動は活発化するが、授業が部分的になり、深まりが浅くなりがち</p>	<p>意見を移動させることで、児童の思考の変化をみることでできた。</p> <p>三角形の下が、最も大事なことが、全体的なことが意味だったかも</p>

●B グループ

- ・自分の意見を持つ、表現するには有効な活動であるが、話し合いやそこからの深まりには改善の余地がある。
- ・出てきた意見をどのようにまとめていくかが課題である。

	付箋が多くなると文字が小さくなる	Jamboardを活用したことが、評価する言葉を整理表現の工夫を読み取る学習に有効だったか。	付箋の色を指定したことで、誰の意見かわかる	やるべきことがしっかりと分かって取り組んでいた。	書くことに苦手意識を持っている児童も参加しやすかった。	Jamboardを活用したことが、評価する言葉を整理表現の工夫を読み取る学習に有効だったか。	
児童の学習活動	友達の付箋を付加修正している子がいいた	班の全員が打ち込んでいた	友達のページをちょっと見ることができ、ヒントになった	不安な場合、友達の考えを見て安心して学習をすすめることができた。	共有ページに自分の意見を貼り付ける作業が多少手取ってしまっただ。	一人一人が考えを表現しやすい。	コピーや貼り付け等の操作にすぐ順応していた。
	消された...というところが起こる難しさ	友達の考えを容易に見ることができ、考えを共有できる	話し合う時間でも、それぞれが画面に向かい作業してしまっただ。	貼り付けた付箋に部分から全体への視覚的グラデーションが効果的だった。	自分の意見を持つ、表現するには有効。話し合いやそこからの深まりには改善の余地あり	付箋で書くことで動かしながら考えを整理していた	実際に付箋に書いて貼ったり割がたりするより早く、保存も複製に効率良くできると感じた。
教師の指導	何をしている時間が、よくわかる明確な指示	教師のクロームブックの活用力が素晴らしい	個々でクロームブックを見ていけると班での話し合いがしにくい感じがした。	一つ一つコピー&ペーストをする時間が勿体無かった。もっとよい方法があれば...	じっくり考えて記述できる時間を確保し授業を進めていた。	付箋を動かしていく中で、部分と全体を評価する言葉に注目できた	「評価する言葉」を整理するには有効だった。ジャムボードを使うことが家庭について考える機会がなかったのは難しかったところがある。もっとじっくり考えさせたいと思いました。
	所々でポイントとなるヒントを与え、既習事項を思い起こさせていた。	コンパクトで指示が明確だった。	最後、全体と部分に分ける際、TV画面が小さくて見にくかったため、全体の画面を共有したかった。		友達の付箋を動かせるので、誰がどの付箋を動かしたか明確になっていてため評価することが難しかった。		どうまとめていくか

●C グループ

- ・全体的に良かったという意見が多かった。
- ・伝え合う活動があると良いと感じた。
- ・付箋が多くなると整理がしにくい様子だったので、同じ考えは消すことができれば良い。
- ・ピラミッドをまずは個人で作成して、それを基に班でのピラミッド作成に移ることができたら、他の人の考えを参考にしながら活動を行うことができたかもしれない。

	Jamboardを活用したことで主体的・協働的な学習につながられたか。	Jamboardを活用したことが、評価する言葉を整理し、表現の工夫を読み取る学習に有効だったか。					
児童の学習活動	考え、記述する時間が確保されていた。	書き出しにくい児童は同じ班の人のものを見て参考にすることができた。	各グループでの伝え合う活動時には、なかなか意見がまとまれないことがあった。	全体での意見の集約にはとても有効な面が見られていた。	同じ考えの付箋を重ねたり並べたりすることで整理することができていた。	付箋がいっぱいになってしまいが、作業のしづらさがあったように思う。	言葉を画面上にまとめたが、班全体としてピラミッドの構造を理解し合っていたのだろうか？
	それぞれの付箋の色を事前に決めて固定していたことが良かった。	会話が少ない中で、お互いの考えを知ることができていた。	グループによっては、話し合う様子が見られなところもあった。板が板の役割もあるか？	同じような内容の付箋は消すことで、ワークシートの整理をしていた。	個人では評価する言葉を整理できていた。	グループで話し合ったことへのフィードバックがあまりなかった。	タイピングの速さに差があることで作業が進みにくい児童がいた。
教師の指導	学習計画が提示されていることで、それぞれの時間の学習の目的を意識することができた。	表現することがわかってきたので子どもたちは活動しやすかった。また、視覚的にもわかりやすい。	何をする時間なのかの説明も詳しくあったのでわかりやすい。	もう少しクロームブックを使って話し合いを活性化できる手立てが立てられると良かった。	頂点は一つなど明確な指示を与えていた。	前回までの言葉の色分けをしたことで、本時の評価する言葉がスムーズに出せていた。	
	児童を引きつける工夫や教師の的確な指示がなされていたので時間を有効に使用していた。	児童の作業の進み具合を見て、適切な助言を与えていた。	ピラミッドの下の方にいくものはどういふものなのか確認できていた。	評価する言葉の大切さの基準の捉え方が難しいと思った。教師の大事なところはどこにある？という問いかけで、選んだ児童が多かったのでは？	児童の意見や活動を一括でみることで変化を確認しやすい。	最後にピラミッドの上の方について言及していたが、児童が考える段階でもう少し触れても良かったのではないかと。	

○指導・助言

- ・ICTを使うことで弊害もある。また、ICTを使えば良いというわけでもないのが難しいこともある。
- ・単元を通して、児童に身につけさせたい力を明確にしているが良い。ねらいを定めて単元を作ることが重要である。
- ・活動を通してねらいとした力が身についたか児童自身も実感できるようにする。
- ・どれをみて、どのように評価するのかを明確にすることが重要である。
- ・話にもあったように、ICTを使うことで書く機会が減る。それにより漢字の書き取りが難しい児童がさらに漢字ができなくなってしまう可能性もある。
- ・色分けは効果的であるの話や小グループの討議でも出たように、誰が書いたのかが分かるので評価がしやすくなる。また、児童も誰が書いたのか分かりやすく意見交換もしやすくなる。視覚的にも分かりやすい。
- ・ヒントを出すことでそのヒントにつられてしまったかもしれない。同じ考えでも選んだ理由をしっかりと考えさせると良い。
- ・ICTを活用することで、「時間的短縮」「視覚的補助」「教科書への書きこみ」等の利点がある。
- ・タイピングをすることに意識をとられ、自分がどんな思考をしていたのか、分からなくなってしまうこともある。

1.2 実践を振り返って（成果と課題）

- 授業において、児童が主体的・対話的に学習に取り組む姿が多く見られた。その要因として、導入の工夫、見通しを持って活動できるワークシートの工夫などもあるが、なにより **Jamboard** を取り入れたという要素が大きな役割をしたように思える。**Jamboard** を使ったことにより、一人で考えた時よりも、たくさんの情報を集めることができ、活発な話し合い活動ができていた。
- 説明文を読み解く作業を行う際に色分けなどを教科書に直接してしまうと、書き直すことが難しい場合がある。ICT を用いることにより何度も書いたり消したりの試行錯誤ができ、考えがまとめやすくなった。
- ICT の活用も念頭において授業を進めていく中で、児童にとって使い慣れない学習用具のため、操作に時間がかかってしまう児童がいた。そのために個人の授業のふり返りまで時間が足りず、自己の考えを深めるというところまでいかなかった。
- 児童が自分の考えを全体で発表するという機会があまりなかった。授業では自分の考えを全体に表現する場やノート指導も大切なので、ICT を効果的に活用しつつ、授業の目標が達成できる授業実践をしていきたい。